

二〇二〇年度

豊島岡女子学園中学校

入学試験問題

(三回)

国語

注意事項

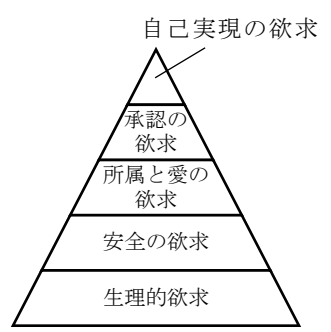
- 一. 合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 二. 問題は□から□、2ページから19ページまであります。
合図があつたら確認してください。
- 三. 解答は、すべて指示に従って解答らんに記入してください。

□ 次の文章は、食の価値観の未来について述べたものです。これを読んで、後の一から九までの各問いに答えなさい。
(ただし、**字数指定のある問いはすべて句読点・記号も一字とする。**)

未来の私たちが、何を欲求し、何に価値をおくのかを予測することは、決して簡単ではありません。しかし、これまで人間が思ってきたことから、大事な部分を抽出し、できるだけ「不変的なもの」を見つけてあげることができれば、未来の心の予測Aセイドは上がっていくでしょう。その①変わらないものとは、何でしょうか。

まず、人間の不変的な「欲求」に関しては、米国の心理学者アブラハム・マズローが主張した、次の「マズローの欲求5段階説」がよく知られています。

- 1……生理的欲求
- 2……安全の欲求
- 3……所属と愛の欲求
- 4……承認の欲求
- 5……自己実現の欲求



マズローの欲求5段階ピラミッド図
(作問者作図)

1～5の優先順位で並んだ欲求は、番号の小さい順番にあらわれ、その欲求がある程度満たされると、次の欲求があらわれます。これらの欲求を、食の場面に当てはめて、例を挙げながら考えてみましょう。

ピラミッドの1階の欲求では、その日その日を生きたるために食べものを食べ、飢えを止めている状態です。2階に上がると、ただ食べるだけではなく、より安全な食品を求めるようになります。さらに3階では、家族や恋人、友達や仲間などと一緒に食卓を囲むことを重視します。4階になると、「^{*1} ②」。最上階の5階までいけば、料理を作ること自体が大きなアイデンティティとなるでしょう。

このピラミッドでは、マズローの示した各欲求階層のそれぞれのレベルが働いています。食は、生理的欲求を満たしたり、安全・安心を提供してくれるだけではなく、食べるという行為を通じて所属や愛の欲求を満たしたり、尊厳や自尊心を叶えたり、さらには自己実現にも役立つ優良なツールといえます。

一方で、オーストリアの③精神科医で心理学者のヴィクトール・E・フランクルは、人間の究極的な欲求として、マズローの最上階の自己実現に反論しました。自己実現や幸福は、おのずと生まれてくるものであり、それを自分の欲求として直接追い求めると本末転倒となり、おかしなことが起こると言っています。

次に、人の欲求の背景にある「価値」、特に時代や状況が変わっても不変的な人間の価値を考えてみましょう。先程のフランクルは、人が実現できる価値には、創造価値、体験価値、態度価値があると述べています。

「創造価値」とは、人間が行動したり何かを作ったりすることで実現される価値で、仕事をしたり、芸術作品を創作したりすることです。「体験価値」とは、人間が何かを体験することで実現される価値で、芸術を鑑賞したり、自然の美しさを体験したり、人を愛したりすることです。

フランクルが最も重要視した「態度価値」は、人間が運命を受け止めざる態度によって実現される価値です。創造価値や体験価値が奪われたとしても、態度を決める自由が人間に残されているというものです。第二次世界大戦中の強制収容所でフランクルは極限の状況の中にあつても、人間らしい尊厳のある態度を取り続けた人がいたことを目撃しています。

食における態度価値とは何でしょうか。フランクルの著書『夜と霧』に、こんな文章があります。

強制収容所にいたことのある者なら、点呼場や居住棟のあいだで、④通りすがりに思いやりのある言葉をかけ、なげなしのパンを譲っていた人びとについて、いくらでも語れるのではないだろうか。そんな人は、たとえほんのひと握りだったにせよ、人は強制収容所に人間をぶちこんですべてを奪うことができるが、たったひとつ、あたえられた環境でいかにふるまうかという、人間としての最後の自由だけは奪えない、実際にそのような例はあったということを証明するのは充分だ。

人が何をどう食べるか、食べないかという「食に向かう姿勢」「食における態度」は、その人の中の「生きる意味」「生きる価値」をあらわす身近なもののひとつとして、これからも存在し続けることでしょう。

⑤ 食べているものを過去から思い返してみると、その種類は時代とともに増えている感覚が多くの人にあるのではないのでしょうか。選べるもの選択肢せんたくしが多くなり、個人の好みや価値観も多様化しているようにみえます。

一人ひとりが食べたいものが違うのは当然として、同じ一人の人間であっても、時と場合によって食べたいものがコロコロと変わります。十人十色どころか、一人十色といった状態です。食は、国や地域といった集団としての多様性に加え、個人の中にも多様性が存在する「スーパーダイバーシティ（超多様性）」であるといえるでしょう。

スーパーダイバーシティとは、2007年、米国の社会人類学者ステイブ・バートベック氏によって打ち出された概念がいねんです。バートベック氏は、英国の移民と少数民族の間だけでなく、その集団の中でも多様性が増していることを示しました。「多様性の多様化」とよばれています。近年になってからは、インターネット等のテクノロジー*4がさらにスーパーダイバーシティを後押しし、集団だけでなく、個人個人の多様性も増大させています。

食の多様性でみると、日本でそれまで珍めずらしかった海外の食材や料理を目にすることが当たり前になりました。また反対に、日本の食材が海外へ輸出されたりと、世界の食生活も多様化しています。これは、人の移動によって社会が多様化したのと同じように、食材の移動によって食も多様化したからです。

さらに、個人の食の好みも、AI*5などのテクノロジーの進化によって、さらにきめ細やかに反映され、⑥スーパーダイバーシティはより複雑になっていくでしょう。実際、多様化する個人の食の願望にに応じて、各々の遺伝子タイプに合った栄養素や食べ方を、テクノロジーを駆使くしして提案する社会システムなども徐々にBコウチクじょじょされ始めています。

当たり前ですが、人の顔がそれぞれ違うように、人の価値観も違います。人の求める料理は、食材や調理法などが限られている場合、選べるものは限定されますが、さまざまな食のテクノロジーの発展は、その制約を解消し、選択肢の幅を広げてくれます。そのことで、自分の価値観により合った食べものを選ぶCキカイが増えていくでしょう。

人がおいしい、または価値があると思う料理は、単に味がいいというわけではなく、たとえば、本物である、シンプルである、凝っている、驚きをくれる、安らぎをくれる、ワクワクをくれる、安心させてくれる、盛り上げてくれる、人と共感できるなどなど、その人がそれぞれ大切と思っている「価値観を刺激してくれる」もしくは「価値観を満たしてくれる」ものなのではないかと思えます。

人生に「本質」を求める人は、シンプルな料理を求め、「本物」を求める人は、本格的な料理を求めるかもしれません。逆に、自分が欲しくない料理は、自分と価値観が合わなかったり、自分の信条に適さない料理ともいえます。その人が生きる上で重要視している部分、もしくは満たされていない部分が、⑦未来の料理には如実に反映されるのではないのでしょうか。

(『「食べること」の進化史 培養肉・昆虫食・3Dフードプリンタ』 石川 伸一)

〔注〕 *1 アイデンティティ||自分が他と区別されて、ほかならぬ自分であると感じられるときの感覚や意識。

*2 ツール||道具。 *3 強制収容所||政治的な理由から、多くの市民を強制的に収容する施設のこと。

*4 テクノロジー||科学技術。 *5 AI||人工知能のこと。

問一 |線A「セイド」B「コウチク」C「キカイ」のカタカナを正しい漢字に直しなさい(一画一画でいねいにはつきりと書くこと)。

問二 波線×「しのいでいる」とありますが、本文中での意味として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 満たしている イ 超^こえている ウ 消している エ 避^さけている オ 耐^たえている

問三 |線①「変わらないもの」とありますが、どのようなものですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人間の持つ、生理的なものから自己実現まで段階的に満たされて表れていく欲求。

イ 人間が人間らしく生きていくために必要な、最低限の欲求と人としてのふるまい。

ウ 人間が多様に持つっている欲求と、その欲求を満たすために人として果たすべき義務。

エ 人間の持つ、与^{あた}えられた環^{かん}境^{きょう}のなかで人間らしく自由にふるまいたいという欲求。

オ 人間の持つ生きるうえでの欲求と、その裏にある人間の活動から生じる価値。

問四 空らん「②」に入る表現として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 作った料理をおいしいねと言ってもらえることなどが原動力になります

イ 食事とともにしてよいと許されることなどに喜びを感じるようになります

ウ 自らが望む料理を自由に作れる環^{かん}境^{きょう}を得ることで自尊心が満たされます

エ 自ら料理を作ることに楽しみを見だし、次第^{はつと}に没頭^{ぼつとう}していきます

オ 家族や友人以外の他者にも料理を食べてもらうことなどを求めます

問五 |線③「精神科医で心理学者のヴィクトル・E・フランクル」とありますが、ここで筆者がフランクルに触^ふれたのはなぜですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア マズローの説の不足を補うことで、より内容をわかりやすく説明するため。

イ マズローの説の誤りを指摘したうえで、これまでの説明をくつがえすため。

ウ マズローの説とは異なった見方を示したうえで、後の話へと展開させるため。

エ マズローの説と同じ話題に触れることで、これまでの説明に説得力を与えるため。

オ マズローの説と相反する説を紹介することで、説明に区切りをつけるため。

問六 —線④「通りすがりに思いやりのある言葉をかけ、なげなしのパンを譲っていた人びと」とありますが、このような人びとを筆者はどうとらえていますか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 周囲がみな他者への配慮を忘れてしまう状況の中で他者へ意識を向け行動に移すことができている、視野が広い。

イ 追いつめられた状況でも他者に対して食を分け与えるといった、人として心あるふるまいを選ぶことができる。

ウ 絶望的な状況でも希望を捨てることなく周囲に声をかけ元気づけることができ、前向きで生命力にあふれている。

エ 食料が限られている中で、他の人に食べてもらうことで食べものを粗末にしないようにするなど、合理的である。

オ 人間として保障されるべき最低限の生活が保てない状況の中で、生活の向上を目指し続けるなど、妥協をしない。

問七 —線⑤「食べているものを過去から思い返してみると、その種類は時代とともに増えている」とありますが、なぜですか。その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 個人の好みや価値観が多様化したため、その要求に合わせて、もともとその土地にない食材を輸入するようになったから。

イ それまでは出会わなかった集団同士の交流が活発化し、独自の食材や調理法の独自性が失われるようになったから。

ウ 遠くの土地の食材や情報がテクノロジーの発達により得やすくなったため、食べものや調理法も多様化していったから。

エ テクノロジーが進化したことによって、個人の食の願望が考慮された食材や調理法が生み出されるようになったから。

オ 運送技術やインターネットの発達で得られた食材や調理法を参考に、独自の食材や調理法を編み出すようになったから。

問八 ー線⑥「スーパーダイバーシティはより複雑になっていくでしょう」とありますが、どういふことですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア テクノロジーの発達によって、食材が移動したり、調理法が他の地域に伝わったりしたこと、これまでになかった食材や調理法が世界中で生まれ、様々な食事を選べるようになっていくということ。

イ テクノロジーの発達によって、人が地域から地域へと移動していくにつれて、より多様な人間が一つの地域に存在するようになり、これまでになかった新たな社会が形成されていくということ。

ウ テクノロジーの発達によって、人が様々な情報を得ることができるようになり、個人個人の生き方に多様性が生じることに加え、時と場合で個人の好みや価値観も変化していくということ。

エ テクノロジーの発達によって、食材や調理法の幅が広がり、時と場合で変化する個人の食の好みに対応できるようになり、それに加えて個体差に応じた食が提供されるようになっていくということ。

オ テクノロジーの発達によって、食材や調理法に制限がなくなり、一集団で同じものを食べていた状況から、同じ集団でも個人個人に合った食が作られ提供されるようになっていくということ。

問九 ー線⑦「未来の料理」とありますが、これはどういふものになると考えられますか。七十字以内で説明しなさい。

□ 次の文章を読んで、後の一から十までの各問いに答えなさい。

(ただし、字数指定のある問いはすべて句読点・記号も一字とする。)

雪音の通う中学校では、近所に新しくできた図書館でどのようなイベントをしてほしいかという企画の募集が行われていた。本が好きな図書委員でもある雪音は、学校で積極的にこの図書館企画のアイデアを考えていたが、考えがまとまらず帰宅した。

家に帰ってからも、図書館企画のアイデアを考え続けた。

ノートにいろいろと浮かんだことを書いていったが、どうもしっくりいかない。

実は、頭に浮かんで離れないものがあるのだ。

「①ぬいぐるみおとまり会」。

外国の図書館ではよく行われているイベントだ。子供のお気に入りのぬいぐるみを図書館に預け、彼あるいは彼女が夜の間に図書館で何をやっているのか——その行動をカメラで撮影してくれる。

子供のお気に入りのぬいぐるみを通して本と親しんでもらうことが目的だが、雪音が知ったのは去年だ。日本の図書館もやっているそうで、その図書館のサイトなどをよく見たものだ。

子供が自分でぬいぐるみを図書館へ送り届け寝かしつけてから帰るとか、真面目な勉強や読書やお仕事をするだけでなく、大勢で仲良く雑魚寝をしたり、真夜中のパーティーとか朝食会とか——。迎えに来た子供には、そんなことをしているぬいぐるみの写真と彼女が夜の間に読んでいた本が渡される。

とにかくすごく楽しそうで、自分ができないのが本当にくやしかった。新しい図書館でやってくれるかも、と思ったが、そういう予定はないらしい。どっちにしろ、多分中学生では参加できないだろう。

②だから、提案しようと思ったのだ。

オリジナルのアイデアではないし、図書館としてはありふれたものだろうけど、雪音はどうしてもこれを、あの新しくきれいな図書館で実現してほしかった。写真を撮るのだったら、背景も美しい方がいいに決まっている。

さらにできれば、子供でない人も参加できるようにしたい。

中学生の雪音ゆきねはもとより、大人だってそういう夢のあるイベントに興味のある人はたくさんいるだろう。我が子だけではなく、自分も参加したいというお母さんやお父さんだっているかも。

でも……自分で思いついたものではないと明記するにしても、オリジナリ*2テイに欠けるとやはり選ばれないだろうか……？ 何か他のことにした方がいいのか……。

③ 日曜日になっても、雪音ゆきねは考え続けていた。

提出日は月曜日だ。今日中に書き上げなければ。

だが、ぬいぐるみおとまり会にするか、新たに考えたものにするかで迷い、新たに考えるにしても子供向けにするか大人向けにするかで迷う。

だいたい大人が喜ぶことってなんだろうか……。

こんな時は、どうしたらいいの？

「気分転換てんかんしようかな……」

でも、外は~~あ~~あいにくの雨だった。ぶらぶら散歩するのもめんどくさい。

行くとしても屋根のあるところで、できれば静かなところ——というところ、図書館しか浮うかばない自分に、④ そつとため息をつく。

うーん、大人になったらお気に入りのカフェでコーヒーや紅茶を飲みながら、ゆっくり読書なんてしたいなあ。でも今はおこぼれかいが苦しいからダメだ……。

どんなカフェがいいだろうか、と空想しながら雨の中を歩いて図書館へ行く。

日曜日の図書館はけっこう混んでいるものだが、今日は天気が悪いせいかな静かだった。併設へいせつされている喫茶きっさコーナーの方が人が多い。

ここの図書館の喫茶——いや、カフェもなかなか雰囲気がいい。有名なパン屋さんが出店しているので、食べ物もおいしいそうだが、ちよつと大人っぽくて敷居が高い。

この間会った三宅さん*3はいるかなとカウンターをのぞいたが、いなかった。少しがっかりしたが、相談するつもりはなかった。休みかもしれないし。

何だか自分には決心が足りないだけ、という気がしてならない。決めていのに、今一步が踏み出せないというか……。それくらい、自分で決められないでどうする。中学生にもなつて。

今の気分にあざわしい本でも読もうと棚を見て回ったが、何だかタイトルが頭に入ってこない。適当に取ってページをパラパラめくつても、⑤文字が上滑りする。

こういう時は絵本かな。文字が頭に入ってこないのなら、絵を見ていればいい。

雪音は児童書コーナーへ向かった。

いつもの日曜日ならにぎわっているコーナーだが、今日は一人だけ、五く六歳さいくらいの女の子がテーブルについて絵本を広げていた。切り株をかたどったかわいいたブルだが、中学生になると座れないのだ。

女の子が読んでいるのは、『*4こんとあき』——雪音の大好きな絵本だった。

おばあちゃんに作ってもらったきつねのぬいぐるみ“こん”は、生まれたばかりの女の子“あき”とともに成長する。こんはぬいぐるみだが、立って歩いて、しゃべって物も食べる。いっしょうけんめいあきの面倒を見るこんだが、ある日、腕うでのほころびに気づく。こんとあきは、おばあちゃんにほころびを直してもらうため、電車に乗って旅に出る——。

こんがものすごくかわいくて、大きなしっぽをドアにはさまれてしまうシーンを本屋で見た時、母に見せたくて絵本を広げたまま店中を探し回った思い出がある（さすがに母は買ってくれた）。

絵本を見る女の子の表情が、刻一刻と変わるのが面白かった。何度も読んで文章もだいたい憶おぼえているので、「今、あのシーンを

「読んでる」というのがよくわかる。

何だかついっつい気になり、⑥絵本を立ち読みしながらもチラチラ見ていたら、最後につこりして本を置いた。

そして、もう一度初めから読み始めた。

ああ、ケラケラ笑ってるのはあたしの大好きなシーンかなあ……。

それにしても一人でいるのが気になった。親はいないんだろうか。

「ねえ、お母さんは？」

しばらく待っても誰も現れないので（その間、その子は何度も『こんとあき』を読んでいた）、ついにたずねてしまった。最近は何らない人と話しちゃいけないときつく言われている子も多いので、ちよつとドキドキしながら。

「お母さんは用事があるの？」

しかし、屈託なく女の子は答える。

「一人で来たの？」

「ううん」

あ、一人じゃないのね、と少し安心する。

「大人の人と一緒なんだね？」

「うん、ちよつと待っててって言われた」

かなり待たされているみたいだけど、あまり気にしないのだろうか。心配になるくらいは無邪気さだ。

でも、とてもかわいい。

「その絵本、好きなの？」

「うん！」

元気のいいお返事だ。

「今日初めて読んだの？」

「ううん。うちにもあるよ」

「それなのにここでも読んだの？ そんなに好きなんだ」

「うん。こん大好き。すうちちゃんに作ってもらったの」

そう言っつて、女の子は本の見返しを見せる。そうだった。最近気づいたことだけれど、この絵本にはこんの型紙が見返しに図案化されている。出版社のサイトには、ちゃんと作り方も載っているのだ。

「すごいね」

「うちのコンコちゃんは女の子なの。すうちちゃん、ワンピース作ってくれた」

こんはかわいいオーバール＊を着ていたはずだ。

「⑦そうかあー」

ぬいぐるみなんて作ったことない。手芸は好きな方だが、すぐに飽きてしまうのだ。一気に作れるものならいいのだが、何日もかかると放り出す。ぬいぐるみ＊を一日で作る勇氣うというか、腕うはまだない。

「コンコちゃんの趣味は読書なの」

「うんうん」

「いつか図書館でいっぱい絵本を読むのが夢です」

「じゃあ、好きな食べ物は？」

「カレーです」

「きつねうどんとかじゃないんだね」

「おあげはあまり好きじゃないの……」

それは、コンコちゃんじゃなくて自分が、ということだな。

コンコちゃんの日常の物語を語る女の子の身振り手振りが面白く、何度も笑ってしまう。

「コンコちゃんの夢は、激辛カレーを食べることと、図書館にお泊まりをしていっぱい本を読むことです」

⑧ 激辛カレーに思わず吹き出す。だが、図書館のくだりに、オーバーオールを着たこんがその椅子に座って絵本を読んでいる姿が浮かんだ。この女の子が、あきに見えてくる。

「でも、両方ともママがダメというのでできません」

そりゃカレーはダメだろう。

「ママは何でダメって言うの？」

「コンコちゃんはまだ小さいから」

「でも、絵本は読めるんですよ？」

「漢字は読めないの。それに、まだ中辛も食べられないから」

「そうかあ」

「あっ！」

突然女の子が声をあげ、カバンの中を探りだす。

「メールだ」

子供用の携帯電話を出す。まだ持っていない雪音は、持っているだけうらやましい。

「すうちゃんが呼んでるから、行くね、お姉ちゃん」

「あ、はい。お話面白かったよ」

「ほんと!? ありがとう! またね、バイバイ!」

女の子は絵本をしまい、ロビーの方へ駆けていった。注意されないかハラハラしたが、幸いあまり人影はない。

ああ、やっぱりおとまり会がいいな。

そしたら、あの女の子とコンコちゃんに来てくれて、とても喜ぶだろう。

雪音は急いで家に帰り、プリントに書き込んだ。

オリジナルティはないけど、本当にやってほしいことなんかも。あの図書館がやってくれたら、本当にうれしいことなんかも。

そう思いながら、雪音は書いた。

うまく書いているかわからないし、多分ダメだろうけど、終わった時には⑨何だかすつきりしていた。

(『ぶたぶた図書館』 矢崎 存美)

〔注〕 *1 彼 or 彼女 || 彼または彼女という意味。

*2 オリジナリティ || 独自の新しい考え方。

*3 三宅さん || 雪音が以前知り合った、新しい図書館に勤める職員の女性。

*4 『こんとあき』 || 林明子作の絵本。 *5 すうちちゃん || 女の子のおばにあたる人物。

*6 オーバーオール || 胸当てつきのズボン。

問一 波線×「あいにくの」の本文中での意味として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 憎らしいことに イ 意外なことに ウ 都合の悪いことに エ 珍しいことに オ 非情なことに

問二 ―線①「ぬいぐるみおとまり会」とありますが、雪音が以前から知っていた「ぬいぐるみおとまり会」についての説明として当てはまらないものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 参加者のお気に入りのぬいぐるみが夜の図書館でどのように過ごしていたのかを、カメラで撮影してもらえらる。
- イ 夜にぬいぐるみが読んでいた本は後で渡されるので、参加者はぬいぐるみが読んでいた本を読むことができる。
- ウ 外国の図書館ではよく開催されているイベントで、ぬいぐるみを通して本に親しみを持たせることが目的である。
- エ 参加者は夜の図書館で自分のお気に入りのぬいぐるみと一緒に勉強したり、雑魚寝をしたりして夜を明かす。
- オ ぬいぐるみは夜の図書館を読書の空間としてだけでなく、ほかのぬいぐるみと交流する空間としても利用する。

問三 ―線②「だから、提案しようと思ったのだ」とありますが、この背景には雪音のどのような思いがあると考えられますか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 中学生となってしまった今となっては自分がぬいぐるみおとまり会に参加することはかなわないが、この図書館でぬいぐるみおとまり会を開くことで、同じように悔しい思いをする人が少なくなつてほしいという思い。
- イ ぬいぐるみおとまり会が実際に行われる様子に興味はあったものの、夜に始まつて一晩中かけて開催される会を運営することはまだ中学生である自分には難しいので、図書館の人たちに代わりに運営してほしいという思い。
- ウ 一般的な図書館で行われる行事としては珍しくないからという理由で、ぬいぐるみおとまり会を開催する予定のないことに反発を覚え、独特なものでなくても開催してほしいという強い気持ちを図書館側に伝えるべきだという思い。
- エ 新しくできたきれいな図書館でぬいぐるみおとまり会を行えば、写真映えもするし参加者の満足度も高まるので、今後本好きな人を増やして図書館を盛り上げていくためにもぬいぐるみおとまり会の開催は不可欠だという思い。
- オ 図書館としてはぬいぐるみおとまり会を開く予定はないらしいので、自分がその開催を求める声をあげることで、自分を含めた子供でない人も楽しめるようなぬいぐるみおとまり会の開催を実現したいという思い。

問四 —線③「日曜日になっても、雪音は考え続けていた」とありますが、長期間にわたって「考え続けていた」雪音の人物像の

説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 考えはあるのに迷いが次々と浮かんでしまうせいではなかなかに決められないような決断力に欠ける人物。

イ 企画を通すためにどのような説得力のある書類を作るかを周到に考えるような妥協を許さない人物。

ウ 自分の意見にどのような反論が想定されるかを考えながらものごとを決めていくような慎重な人物。

エ だれにも頼ったり相談したりせず自分だけで判断して企画を決めていくような行動力のある人物。

オ 周囲の評価に自分の提案を合わせようとするあまり自分の考えをまとめられないような優柔不断な人物。

問五 —線④「そつとため息をつく」とありますが、なぜですか。その理由を六十字以内で説明しなさい。

問六 —線⑤「文字が上滑りする」とありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一

つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の意識が本に向いていないために、本の内容がつまらなく感じられてしまうということ。

イ 使われている言葉が難解なために、文字が単語のまとまりとして目に入ってこないということ。

ウ 体裁の良い言葉が並んでいるために、本の内容がうわべだけの軽々しいものに見えるということ。

エ 別のことで思考を支配されているために、本の内容を理解することができないということ。

オ 本のページが文字ばかりであるために、読んでいてもその本に魅力を感じないということ。

問七 ―線⑥「絵本を立ち読みしながらもチラチラ見ていたら」とありますが、この時の雪音の心情の説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分が熟読して内容を把握はあくしているので、女の子が絵本のどの部分を読んでもどのような感情を抱いだいているのかが表情からわかり、親しみを感じている。

イ 女の子が絵本の内容に対して一喜一憂いっきいちゆうし、その度に率直な感情を顔色に表している様子をずっと観察しながら、その目まぐるしい変化におかしさを感じている。

ウ 自分にとって大好きな絵本なので、女の子が絵本を楽しそうに読んでいる様子を見て、女の子も自分と同じようにこの絵本を好きになったと思い、嬉うれしく感じている。

エ 絵本の内容に合わせて変化する女の子の感情が表情に表れており、そこから女の子が今絵本のどの場面を読んでいるのかを推測することに楽しみを感じている。

オ 自分が内容を覚えている絵本を読んでいる女の子の表情を見て、自分が持った感想と違ちがった感想を女の子が持つて読んでいることに気づき、興味深く感じている。

問八 ―線⑦「そうかあー」とありますが、こう言ったときの雪音の態度の説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分はぬいぐるみなど作れるだろうかと自分のことだけ考えており、女の子の話にうわのそらで生返事をしている。

イ コンコちゃんと絵本のこんの格好ちがの違いを考え、コンコちゃんの性別に気付いた感動を込こめて返事をしている。

ウ コンコちゃんが手作りのぬいぐるみであることへの感嘆かたんを込め、想像力を働かせながら女の子の話に楽しく応対している。

エ コンコちゃんが絵本のこんに手を加えた独自のものだどわかり、そのようなものを作る決断力のない自分を反省している。

オ 自分にはぬいぐるみを手作りすることなど到底とうていできないと思い、コンコちゃんを手作りした人物に尊敬の念を抱いだいている。

問九 —線⑧「激辛カレーに思わず吹き出す」とありますが、なぜ雪音は「吹き出」したのですか。その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 今までの穏やかな会話に不釣り合いな激辛カレーという過激な単語を聞き、女の子の新たな一面を知って驚いたから。
- イ 激辛カレーを食べるといふコンコちゃんの夢に自分自身の夢を重ねている女の子の純粋さを、おかしく思ったから。
- ウ 激辛カレーを食べられるかどうかが大人の証であることとらえている女の子の健全な考えを、かわいらしく思ったから。
- エ ぬいぐるみのコンコちゃんが四苦八苦しながら激辛カレーを食べている光景を思い浮かべて、おもしろく思ったから。
- オ 幼いとはいえ、ぬいぐるみが激辛カレーを食べるといふことを信じて疑わない女の子に対して衝撃を受けたから。

問十 —線⑨「何だかすつきりしていた」とありますが、なぜですか。その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 女の子の持つぬいぐるみのコンコちゃんにまつわる話を聞いたことをきっかけに、ぬいぐるみとおとまり会の必要性を改めて感じ、新しい図書館でそれをやってほしいという思いが明確になったから。
- イ 女の子がコンコちゃんと一緒にぬいぐるみとおとまり会に参加したいと思っていることを知り、たとえ認められなくても、女の子のためにそれを提案しようという覚悟を決めることができたから。
- ウ 女の子も自分と同じようにぬいぐるみとおとまり会をやりたいと思っていることを知り、この企画が自分の独りよがりなものではないということがわかり、このまま提案してよいのだと安心したから。
- エ 絵本を読むことが大好きな女の子の話を聞き、絵本の重要性に気付いたことで、長時間考え続けていた企画をぬいぐるみとおとまり会にすることをようやく決断できたことに達成感を覚えたから。
- オ 女の子も雪音が考えていたぬいぐるみとおとまり会と同様のものを夢見ていることを知り、たとえ採用されなくとも自分が望むものを提案すればよいのだと気持ち、今まで抱えていた迷いが消えたから。

二〇二〇年度

豊島岡女子学園中学校入学試験

国語解答用紙（三回）

※のらんには記入しないこと

座席番号

—

受験番号

1 3

氏名

Blank space for student name

得点

※

Blank space for score

一

問一
A
B
C

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問八

問九

二

問一

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問八

問九

問十

※のらんには記入しないこと

座席番号				
—				
受験番号				
1	3			

氏名

得点
100 ※

一

問一	A
精度	
問二	B
構築	
問三	C
機会	

問二	オ
問三	オ
問四	ア
問五	ウ

問六	イ
問七	ウ
問八	エ

問九				
れ	に	値	、	発
て	、	観	多	展
い	そ	に	様	し
る	こ	対	化	た
も	に	応	し	テ
の	個	で	た	ク
。	人	き	個	ノ
	の	る	人	口
	価	よ	の	ジ
	値	う	食	丨
	観	に	の	を
	が	な	好	駆
	反	る	み	使
	映	た	や	し
	さ	め	価	て

二

問一	ウ
問二	エ
問三	オ
問四	ア

問五			
浮	に	ん	図
か	行	で	書
ば	く	い	館
な	場	た	の
い	所	と	イ
自	と	こ	ベ
分	し	ろ	ン
に	て	な	ト
あ	図	の	を
き	書	に	何
れ	館	、	に
た	し	気	す
か	か	分	る
ら	思	転	か
。	い	換	悩

問六	エ
問七	ア
問八	ウ
問九	イ
問十	オ

一 問一 各2点
 二 問二 各2点
 三 問三 各2点
 四 問四 各2点
 五 問五 各2点
 六 問六 各2点
 七 問七 各2点
 八 問八 各2点
 九 問九 各2点
 十 問十 各2点